

ビルドインコマンド

DIR

ファイル名のリストアウト。

カレントドライブの全リスト。

```
A>DIR
```

ドライブ指定。

```
A>DIR B:
```

ファイルマッチ。

```
A>DIR *.ASM
```

TYPE

テキストファイルのタイプアウト。

```
A>TYPE DUMP.ASM
```

REN

リネーム。左が変更後名。右が変更前。

```
A>REN MACRO-80.COM=M80.COM
```

ERA

ファイル削除。

```
A>ERA MOVECOM.COM  
A>ERA B:* *  
ALL (Y/N)?Y
```

SAVE

TPA の始まり (100H) から n ページ分のメモリの内容をファイルにする。1 ページは 256 バイト。

```
A> SAVE 2 TESTSAVE.COM
```

USER

有用でないため説明省略。

トランジェントコマンド

STAT

ファイルや周辺装置の設定、状況表示。

アクセスされたことのあるドライブの未使用容量と属性の表示。

A>STAT

ドライブの未使用エリア容量表示。

A>STAT A:

ファイルのサイズと属性表示。

A>STAT B:M80.COM

レコード数 (size) も表示。

A>STAT B:M80.COM \$\$

SYS 属性を付ける。

A>STAT B:M80.COM \$SYS

ロジカルデバイスに対するフィジカルデバイスの割付け状況表示。

A>STAT DEV:

ロジカルデバイスに対し割付け可能なフィジカルデバイスを表示。

A>STAT VAL:

CON: に対し TTY: を割り付ける。

A>STAT CON:=TTY:

アクセスされたドライブ全部の諸元を表示。

A>STAT DSK:

ドライブにライトプロテクトをかける。

A>STAT A:=R/O

PIP

周辺装置間のデータ転送。引数なし単独起動可能。

ファイルコピー。左がコピー先。右が元。

A>PIP B:=ED.COM

リネームコピー。

A>PIP B:MACRO-80.COM=A:M80.COM

デバイスに対しても可能。CON:へコピーすれば、画面へ表示される。(=TYPE コマンド)

```
A>PIP CON:=B:TEST.BAS
```

タイプ入力をファイルにする。(終了は ^Z)

TeraTerm 等で直接ファイル転送ができる。Setup>Serialport>Transmit delay を 10msec ぐらいに設定。File>Send file でファイル選択。

```
A>PIP TEST.TXT=CON:
```

ファイルの連結。

```
A>PIP TEST.BAS=TEST0.BAS,TEST1.BAS,TEST2.BAS
```

オプションパラメータの与え方

```
A>PIP TEST.TXT=RDR:[B]
```

PIP パラメータ	機能
B	ブロック転送。^S 受信でバッファフラッシュ。
Dn	ライン文字数制限。
E	コンソールへエコー。
F	フォームフィード (OCH) を削除。
H	インテル HEX 形式のデータとしてフォーマットチェックを行う。
I	[H] の機能時にヌルレコードを無視する。
L	大文字を小文字に変換。
N	ラインナンバー付加。ゼロ付きは [N2]。
O	EOF(1AH):^Z による終端を無視。バイナリー転送可能とする。
Pn	n ラインごとのページ送り。デフォルト 60 行。
Q 文字列 ^Z	'文字列' を検索すると終了する。
S 文字列 ^Z	'文字列' を検索したところから転送開始する。
R	SYS 属性の付いたファイルの転送。
Tn	タブスペースを n カラムとする。
U	小文字を大文字に変換する。
V	ベリファイを行う。
W	転送先が R/O でも強制的に実行する。
Z	データのビット 7 を 0 にして転送する。

PIP 特殊デバイス

デバイス名	機能
EOF:	ターミネートコード EOF(1AH) を出力する。
NUL:	40 個の NUL(00) を出力する。
PRN:	ライン No.、8 文字ごと TAB、60 ラインごとのページ割付き LST: デバイス。
INP:	ユーザが PIP 内 (109F-1FFH) にパッチして組込む。103H を CALL、109H のデータを取得する。
OUT:	ユーザが PIP 内 (109F-1FFH) にパッチして組込む。出力データを C レジスタに設定して 106H を CALL する。

ED

テキストエディタ。

A>ED B:TEST.BAS

ED コマンド	機能
nA	エディットバッファに n 行ロード。
0A	エディットバッファの容量半分までロード。
± B	CP を + 先頭 / - 最後にセット。
± nL	n 行移動し行頭に CP をセット。
± n	nL を実行し、その行をタイプアウト。
0	CP を行頭にセットしタイプアウト。
{Enter}	CP を次の行の行頭にセットし、タイプアウト。
n:	CP をライン No.n の頭にセット。
± nT	CP から n 行分タイプアウト。
0T	行頭から CP までタイプアウト。
n::mT	ライン No.n-m までをタイプアウト。
± nC	CP を n 文字移動する。
± nP	CP から n ページ (23 行) タイプアウト。
nF 文字列	CP 以後バッファ内で、n 番目に出現した文字列の最後に CP をセット。
nN 文字列	CP 以後ファイル内で、n 番目に出現した文字列の最後に CP をセット。
± nD	CP から n 文字分削除。
± nK	n 行分削除。+(CP 含む) / -(CP 含まない)

I	CP 以後からインサートモード。^Z で終了。
I 文字列 ^Z	文字列挿入。
I 文字列 {Enter}	文字列挿入し、行を追加する。
Rfilename	filenameLIB ファイルを CP 以後に挿入する。
nS 文字列 1^Z 文字列 2	CP 以後のバッファ内で文字列 1 を文字列 2 に置換する。n 回繰り返す。
nJ 文字列 1^Z 文字列 2^Z 文字列 3	文字列 1 の後に文字列 2 を挿入、文字列 3 まで削除。n 回繰り返す。
nX	CP から n 行分をテンポラリファイルに保存 (= 行コピー)
R	テンポラリファイルに保存されている行を CP 以後に挿入する (= 行ペースト)
0X	テンポラリファイルを空にする。
± U	U 実行後の入力文字は大文字に変換。-U で解除。
nMcommand	command をバッファの最後まで n 回実行。
Mcommand	command をバッファの最後まで繰り返し実行。
± V	-V でライン No. 非表示。
0V	エディットバッファ使用状況表示。
nZ	表示ディレイ設定。(4MHz クロックで 1/4 秒)
nW	エディットバッファ最初から n 行カットしテンポラリファイルに保存。
E	保存終了。
H	保存。
O	編集全キャンセル。
Q	編集キャンセル終了。
n:command	CP を n ラインにセットし command 実行。
:n command	command を CP から n ラインまでに対して実行。

- ・ CP: キャラクタポインタ。
- ・ + は省略可。
- ・ n が 1 の時省略可。# は最大数 (=65536)。
- ・ コマンドを大文字で与えると、テキストの小文字が全部大文字になるので注意。

ASM

8080 アセンブラ。

ターゲットファイルの指定は拡張子は付けない。以下の 3 文字はドライブ名を表す。
filename.shp (s: ソース。h:HEX 出力先。p:PRN 出力先)の意味。Z: 出力しない。X: コンソール。

A>ASM DUMP

ドライブ A のソースをアセンブルするが何も生成しない。エラーはコンソールに出力。

A>ASM DUMP.AZZ

ASM エラーコード

コード	エラー	エラーの原因
D	Data	エクスプレッションの値がデータエリアに適合しない。
E	Expression	表現上のエラー。
L	Label	ラベルが不正。
N	Not implemented	インプリメントされていない命令を使用した。
O	Overflow	エクスプレッションの値が限度を超えた。
P	Phase	アセンブラ実行中の各パスで、ラベルの値が異なった。
R	Register	適合しないレジスタが指定された。
U	Undefined	ラベルが定義されていない。
V	Value	オペランドやエクスプレッションの値が範囲外。

LOAD

HEX COM 変換プログラム。

A>LOAD B:TEST

DDT

8080 デバッガ。

ファイルを指定した場合は、それをアドレス 100H からメモリへ配置して起動する。HEX ファイルの場合はバイナリに変換し HEX 内で指定されたアドレスへ配置される。

A>DDT DUMP.COM

コマンドの書式 (アドレスの指定方法)D コマンドの例。

-D ; 現在のアドレスから規定バイト
-Dssss ; 指定のアドレスから規定バイト
-Dssss,eeee ; 指定から指定まで
-D,eeee ; 現在から指定まで

DDT コマンド	例	機能
----------	---	----

A	Assss	1 ステップ毎のラインアセンブル。ssss からロード。スペースで終了。
D	D	ダンプ。デフォルト 12 行。
F	Fssss,eeee,cc	ccH で埋める。
G	Gssss,bbbb	ブレークポイント bbbb を設定 (、で複数可) して実行する。
H	Hxxxx,yyyy	xxxx と yyyy の十六進加算減算結果表示。
I	IDUMP.COM	アドレス 5CH のファイルコントロールブロックにファイル名を設定。
R	Rbbbb	I で指定したファイルに対し起動時指定と同じ動作。bbbb はバイアス値。
L	Lssss	逆アセンブル。デフォルト 11 ライン。
M	Mssss,eeee,nnnn	nnnn からヘブブロック転送。
S	Sssss	内容を表示。変更可能。リターンで次。"."(ドット)で終了。
Tn	T3	現 PC から n ステップトレース。CPU 状態表示。任意のキーでブレーク。
Un	U5	最終の CPU 状態のみ表示する Tn。
X	X	レジスタ類の表示。Xr で r(レジスタ : C,Z,M,E,I,A,BC,DE,HL,S,P) 指定で変更可能。

DUMP

ファイルの 16 進ダンプ。

```
A>DUMP DUMP.ASM
```

SUBMIT

バッチ処理プログラム。処理定義ファイル (subfile.SUB) は A: ドライブでなければいけない。

TEST.SUB を実行する。

```
A>SUBMIT TEST
```

SYSGEN

CP/M システムディスク作成プログラム (機種依存) CP / M メモリサイズ変更手順メモ

TPA(ユーザーメモリ)上の900Hから配置されたシステムトラックイメージをシステムトラックに書き込む。

```
A>SYSGEN
```

ファイル化した CP/M システム 48KCPM.COM からシステムディスクを作る。

```
A>SYSGEN 48KCPM.COM
```

MOVCPM

CP/M システムのリロケートプログラム。リロケート可能なシステムイメージを内包しており、任意メモリサイズのシステムを生成できる。 CP / M メモリサイズ変更手順メモ

32KCP/M システム (CCP/BDOS) を生成し TPA(980H ~) に配置する。

```
A>MOVCPM 32 *
```

可能な最大メモリサイズの CP/M システムを生成する。

```
A>MOVCPM * *
```

AVR と Z80 で CP / M へ戻る

・ cp/m マシンを 3 台所有。3.5 inch floppy drive。懐かしいです。ありがとう - Kazuhiro NOGAKI (2017 年 07 月 22 日 09 時 43 分 58 秒)